

第2回 進路説明会

小平市立小平第二中学校

令和4年10月4日(火)

3年 組 番 氏名

目次

1	都立高等学校の入試について	
(1)	推薦に基づく選抜（推薦入試）	… P. 2
(2)	学力検査に基づく選抜（一般入試）	… P. 4
(3)	都立に出願する書類	… P. 7
(4)	志願変更（願書差し替え）	… P. 8
(5)	入学手続き	… P. 9
(6)	分割後期募集及び二次募集	… P. 9
(7)	インフルエンザ等学校感染症罹患者等に対する 追検査	… P. 10
(8)	その他の学校	… P. 11
2	私立高等学校の入試について	
(1)	私立高校の特色	… P. 12
(2)	私立高校を選択するときの注意	… P. 12
(3)	日程	… P. 12
(4)	推薦入試	… P. 13
(5)	一般入試	… P. 14
(6)	特待生・奨学金	… P. 15
3	高等専修学校等・就職について	… P. 15
4	校内での推薦（推薦受験・優遇制度等）について	… P. 16
5	推薦・優遇制度を利用する際の注意点	… P. 17
6	今後の予定	… P. 19

資料 『私立高校には学費負担を軽減する制度があります』 東京都私学財団

1 都立高等学校の入試について

都立高校の入試は下記の2通りがあります。

- 推薦に基づく選抜（推薦入試）
 - ① 一般推薦
 - ② 文化・スポーツ等特別推薦
 - ③ 理数等特別推薦
(立川高校創造理数科において実施)
- 学力検査に基づく選抜（一般入試）
 - ① 第一次募集 ・ 分割前期募集
 - ② 分割後期募集 ・ 第二次募集（第一次募集で定員に満たない場合）

(1) 都立高等学校 推薦に基づく選抜（推薦入試）

事項	日 時		
出願	入力期間	令和4年12月20日(火) から 令和5年1月18日(水) まで	※インターネット上の出願 サイトで入力
	書類提出 期間	令和5年1月12日(木)から 18日(水)までに 必着	※中学校が都立高校に郵送する。 受検票は出願サイト上で 交付される。
個人面接・作文等、 及び実技検査等	令和5年1月26日(木) 1月27日(金)		※原則1日で実施
合格発表	令和5年2月 2日(木)		午前8時30分(ネット) ※出願サイトに掲載 午前9時30分(校内掲示)
入学手続	令和5年2月 2日(木) 2月 3日(金)		午前9時30分 ~ 午後3時30分 午前9時 ~ 正午

都立推薦入試を希望するにあたって

都立高校の推薦入試は、毎年、希望者が多く、大変厳しい入試になることが予想されます。倍率は3倍から4倍、学校によっては10倍近くになることもあります。「推薦合格は難しいだろうけど、チャンスが2回になるから」という考え方で受検をする人もいますが、都立高校の推薦入試は、試し受検などの軽い気持ちではなかなか合格できません。合格者は面接、作文などの対策に時間をかけて取り組んだ人です。まぐれや運では合格はしません。

推薦入試を受検するにあたり、一般入試前の大切な時期に、自己PRカードや面接、作文等の準備に力を使い、出願日・検査日・合格発表日などの当日はもちろん、前日までの多くの時間を、緊張感をもって過ごすことになります。そのため、一般入試に向けての学習が手薄になってしまうというマイナス面もあります。さらに、一般入試の直前に「不合格通知」を受け取った場合は、中学生にとっては想像以上のショックです。チャンスが2回になるどころか、不合格のショックから立ち直れず、一般入試にも集中できないということも起こりえます。それでは、自ら合格の可能性を下げってしまうことになるのです。

都立推薦入試を希望する場合は、それらの点を考慮して十分に検討してください。

ア 応募資格

- (ア) (私立高校、国立高校を含め) 志願する都立高校を第1志望とする者
- (イ) 令和5年3月に中学校を卒業する見込みの者
- (ウ) 保護者と同居している者で、都内に住所を有し、入学後も引き続き都内から通学することが可能

な者

(エ)中学校長の推薦を受けた者(小平二中の推薦基準により、校内推薦委員会で承認された者)

(オ)文化・スポーツ等特別推薦については、都立高校の個性化、特色化、「卓越した能力をもつ生徒の個性を一層伸長させる。」という趣旨から、文化的・スポーツ的活動において優れた能力をもつ者

(カ)理数等特別推薦については、「科学技術の根底にある理数系分野の素養を前提に、探求の過程を通して、課題を解決する力や、他者の考えから自分の考えを深めるとともに、新しい価値を生み出す創造性など、変化し続ける社会にあつて生徒に必要となる力を伸ばす。」という趣旨から、理数分野において優れた能力をもつ者

※ 厳密な推薦基準ではありませんが、各高校は、基本的に次のようなことのいくつかの項目をもとに、「本校の期待する生徒の姿」を定めています。

- ・ その高校(又は、コース・学科)を志望する目的意識、理由が明確であること
- ・ その高校(又は、コース・学科)に対する適性及び、興味・関心があること
- ・ 学習成績が良好であること(特に当該学科に関連する教科)
- ・ 部活動、生徒会活動、委員会活動、奉仕活動等に積極的に参加し、今後も継続する意志のある生徒であること

イ 出願

(ア) 1校1コースまたは1科(1分野)に限り出願することができます。志願変更はできません。

(イ) 志望する都立高校に、同一の学科内に2科(2分野)以上ある場合は、第2志望まで、志望の順位を付けて出願することができます。ただし、異なる学科を第2志望とすることはできません。

※ 書いた第2志望は取り消せません。第2志望での合格だとしても必ず入学確約書を提出します。入学する気がない学科は記入しないようにしましょう。

例	○	田無工業高校	第1志望	機械科	(工業に関する学科)
			第2志望	都市工学科	(工業に関する学科)
	×	小平高校	第1志望	外国語コース	
			第2志望	普通科	※異なる学科は第2志望に指定できない
	×	農業高校	第1志望	食品科学科	(農業に関する学科)
			第2志望	服飾科	(家庭に関する学科)
					※異なる学科は第2志望に指定できない

(ウ) 文化・スポーツ等特別推薦を実施する都立高校の種目の内から1種目を指定し、1コースまたは1科に限り出願できます。志願変更はできません。また、**同一日に実施している当該校の一般推薦に出願することができます。(受検料は2回分必要)**

(エ) 理数等特別推薦については、他の推薦入試への出願はできません。

文化・スポーツ等特別推薦を実施する高校の例

小平西、小平南、東村山、東村山西、日野、福生、狛江、東大和、東大和南、清瀬、久留米西、武蔵村山、田無、保谷など多くの学校で実施(学校によって種目等は様々です) ※以下は過去の例です

学校名	内容(種目)	人数	推薦基準(全てにあてはまる者)
小平西	吹奏楽	男女 ・4	○中学3年間吹奏楽部に所属し、意欲的に活動した者 ○本校吹奏楽部の方針を理解した上で、吹奏楽部に入部して活動を3年間継続し、部活動の運営面にも意欲のある者 ○学校生活のルールを守り、部活動と学業を両立することができる者
小平南	バスケットボール	男3 女2	○中学校時代バスケットボール部に所属し、運動能力に優れ、都大会レベルの実力のある者 ○本校入学後バスケットボール部に3年間所属する意志がある者 ○本校において学業と部活動の両立ができる者

- ※ これはあくまで基準で「出願しても良い」という条件でしかありません。
- ※ 今回の入試では、大会の実績や、資格・検定試験等の成績を証明する書類等の写しを提出しません。
- ※ 同一日に実施している当該校の一般推薦にも出願することができます。

ウ 合否判定

調査書、個人面接（特別推薦では集団面接の場合もある）、小論文または作文等の実技の検査を総合した成績に基づき選考されます。今回の入試では、集団討論は実施されません。出願時に提出する自己PRカードは点数化せず、面接等の選抜資料として総合的に活用するという位置付けです。

特別推薦については、各都立高校の基準に基づき選考されます。各都立高校が自校の教育活動の実績や特色などに基づいて適切な基準を定めます。調査書点の点数化方法は、一般推薦の場合と同様です。

エ 推薦入試のきまり（重要！）

- (ア) 志願変更はできません。
- (イ) 推薦入試に合格したら、辞退はできません。必ず入学確約書を提出します。
- (ウ) 合格したら、その後の都立入試（一般入試）および私立入試には出願できません。
- (エ) 不合格の場合でも、一般入試で再度受検をすることができます。

（２）都立高等学校 学力検査に基づく選抜（一般入試）

<第一次募集及び分割前期募集> [定時制については時間が異なります。]

事 項		日 時		
出願		入力期間	令和4年12月20日(火)から 令和5年2月7日(火)まで	※インターネット上の出願サイトで入力
		書類提出期間	令和5年2月1日(水)から 2月7日(火)までに 必着	※中学校が都立高校に郵送する。受検表は出願サイト上で交付される。
志願変更	願書 取下げ	令和5年2月13日(月)		午前9時～午後3時 ※手続きは直接高校へ
	願書 再提出	令和5年2月14日(火)		午前9時～正午 ※ネット出願し、書類提出は直接高校へ
学力検査		令和5年2月21日(火)		集合 午前8時30分
実技・面接等		令和5年2月21日(火)以降、各都立高校が定める日時		
合格者の発表		令和5年3月1日(水)		午前8時30分(ネット) ※出願サイトに掲載 午前9時30分(校内掲示)
入学手続き		令和5年3月1日(水)		午前9時30分～ 午後3時30分
		令和5年3月2日(木)		午前9時～正午

ア 応募資格

- (ア) 令和5年3月に中学校を卒業する見込みの者
- (イ) 保護者と同居している者で、都内に住所を有し、入学後も引き続き都内から通学することが可能な者
- ※ 都立高校推薦入試の合格者は出願できません。また、都立産業技術高等専門学校等の合格者は、出願していたとしても受検できません。
- ※ 他県立高校等との併願はできません。

イ 出願

- (ア) 都内のどの都立高校にも出願できます。
- (イ) 1校1コースまたは1科に限り出願できます。ただし、立川高校の理数科を第1志望とする者は、同校の普通科を第2志望に指定することができます。
- (ウ) コース制の高校、専門学科のある高校など、志望する同一の都立高校内にある同一の学科内に2科以上ある場合（芸術に関する学科を除く）は、他の全ての科（分野）に志望の順位をつけて出願できます。

- 例) ○ 田無工業高校 第1志望 機械科 (工業に関する学科)
第2志望 都市工学科 (工業に関する学科)
第3志望 建築科 (工業に関する学科)

→田無工業高校は同じ学科に3つの科があるので、第3志望まで記入できる。

※ 書いた第2・3志望は取り消せません。第2志望での合格だとしても必ず入学確約書を提出します。入学する気がない学科は記入しないようにしましょう。

エ 学力検査

- (ア) 検査教科等の実施内容については、各都立高校で定めています。5教科入試（国語・数学・英語・社会・理科）や3教科入試（国語・数学・英語）、自校作成問題などがあります。なお、エンカレッジスクールとして指定された都立高校においては学力検査を実施しません。
- (イ) 各教科の満点は100点です。ただし、特定の教科の配点に比重をかける（傾斜配点を行う）学校もあります。
- (ウ) 学力検査の時間割

	開始時間 ~ 終了時間	(時間)	教科
集 合	8 : 3 0		
第1時限	9 : 0 0 ~ 9 : 5 0	(50分)	国 語
第2時限	10 : 2 0 ~ 11 : 1 0	(50分)	数 学
第3時限	11 : 4 0 ~ 12 : 3 0	(50分)	英 語
第4時限	13 : 3 0 ~ 14 : 2 0	(50分)	社 会
第5時限	14 : 5 0 ~ 15 : 4 0	(50分)	理 科

※ 英語学力検査時間の最初の約10分間に、リスニングテストを実施する。

※ 検査間の休憩時間は30分とする。

オ 一般入試の合否判定

(ア) 選考の基本方針

選考は、調査書、学力検査（面接、小論文または作文、実技検査も含む）、ESAT-J結果の点数を総合した成績（以下「総合成績」という）に基づき、募集人員に相当する人数を成績順により決定します。

(イ) 学力検査点と調査書点の比重

一般入試の選抜は、学力検査の得点と調査書点（内申）、ESAT-J結果の点数の合計点（以下「総合得点」という）によって行われます。学力検査と調査書の比率は全日制の学校では、7：3で、芸術や体育に関する学科は6：4です。（定時制は7：3または6：4のどちらかになります。）

(ウ) 学力検査の得点

学力検査の得点は総合得点を計算する際、志望校の「得点と内申の比重」と「入試教科数」によって換算します。学力検査は、原則5科（国語、数学、英語、社会、理科）で行われます。教科の得点の合計点を、7：3の場合には1.4倍し、700点満点に直します。

また、国数英の3教科を、その高校独自に作成した問題（自校作成問題）で行う学校もあります。（理・社は、都立高校共通問題です）

検査教科のうち、1教科（面接等を含む）でも受検しなかった者は棄権したものとみなされ

ます。

コース制高校や全日制の単位制高校など、傾斜配点を行っている学校があります。
(例 小平高校外国語コース 英語 2倍 多摩科学技術高校 数学・理科 1.5倍)

※ 5科 (500点満点) 入試高校の学力点の計算式と換算点の例 (得点の1.4倍となります)

計 算 式	例：500点	例：250点	例：50点
学力検査の得点×700÷500	700点	350点	70点

(エ) 調査書点

調査書には9教科の評価が5段階で記入されます。選考の際は、学力検査の得点のように比率に合わせて計算する前に「換算内申」というものに一度直します。

この換算内申を比重にあわせて、7：3の場合は300点満点に直します。

☆調査書点に使われる成績は、3学年2学期の成績です。本校では、第1学期及び第2学期を通じた成績を第2学期の成績とし、これを調査書点として使います。

※ 5教科入試校の場合 (学力検査をしない4教科を2倍)

$$\begin{array}{l} \text{(国+数+英+社+理)} + \text{(音+美+体+技家)} \times 2 = \text{換算内申} \\ 25\text{点満点} \quad + \quad 40\text{点満点} \quad = 65\text{点満点} \end{array}$$

(3教科入試校の場合には、学力検査をしない6教科を2倍し、75点満点)



※ この換算内申を各高校の比重にあわせて、300点満点にする。6：4は400点満点

比重 (学力検査点：調査書点)	計算式
7：3	換算内申×300÷65

【具体例：二中さんの場合の換算内申と総合得点の予想の計算方法】

○二中太郎くんの2学期の成績 → 換算内申

国語	社会	数学	理科	英語	音楽	美術	保体	技家	内申の素点の合計 (素内申)	換算内申
4	3	5	4	3	3	2	4	4	32	19+13×2→45
5科計 19			4科計 13							5科計+4科×2

○二中さんは学力検査で320点得点した → 学力検査点



以上の数値を用いて、総合得点を計算すると…

都立C高等学校を受検する場合…5教科入試。「得点と内申の比重」が7：3の場合

学力検査点 320点×700÷500=448点

調査書点 45点×300÷65=207点 ※小数点以下切り捨て

ESAT-J得点 12点

よって総合得点は 448+207+12=667点

○この総合得点 (1020点満点中667点) で合否が判定される。

(オ) 面接・小論文または作文・実技点 (実施される学校のみ)

面接点・小論文または作文点・実技点は各学校が適切に定めます。

(カ) エンカレッジスクールの選考

エンカレッジスクールとして指定された高校 (秋留台、東村山、足立東、蒲田、中野工業、練馬工業) の選考は、入学者選抜方法一覧に基づき、調査書、面接、小論文及び実技検査の結果

を総合した成績、入学願書による志望及び都立校校長が必要とする資料（自己PRカードを含む）を用いて総合的に判断して行われます。学力検査はありませんが、倍率は例年高くなっています。

（「実技検査」は、学校による独自のものです。「学力検査がない」ことを安易に考え、受検校として決定することがないようにしましょう。）

(キ) チャレンジスクールの選考

チャレンジスクール（稔ヶ丘、桐ヶ丘、大江戸、六本木、世田谷泉、小台橋）及び八王子拓真（チャレンジ枠）の選考は、学力検査・調査書を用いず、志願申告書（自己PRカードに代わるもの）・面接及び作文により行います。

(ク) 合格候補者の決定について

a 普通科（コース及び単位制を除く）

男女別の募集人員の各8割までを男女別の総合成績の順により決定した後、残りの2割の人員を、男女合同の総合成績の順により決定し、合格候補者とします。（男女別定員の緩和措置）

b 普通科（コース、単位制）及び総合学科

募集人員に相当する人員をコースごとに総合成績の順により決定し合格候補者とします。
※コース制の学校については、試験科目や配点等、独自の試験方法なので、注意してください。
例えば、小平高校普通科の外国語コースは、英語の学力検査得点が2倍になります。

c 専門学科及び定時制の選考

- I 当該高校の募集人員に相当する人員を総合成績の順により決定します。
- II 学科内に2科以上ある場合には、次の方法により合格候補者を決定します。
 - ① 科ごとにIの人員のうち、その科を第1志望とした者の中から、総合成績の順に合格者を決定する。
 - ② 第1志望で募集人員に達しない科は、その不足人員を前項Iの人員のうちから志望の順位に基づき、総合成績の順に充足する。
 - ③ この方法により充足しない科がある場合、当該の科について、合格候補者となっていない受検者の中から、総合成績の順に当該の科の志望の有無に基づき、志望の順位により充足する。

(3) 都立出願に関する書類など

令和5年度入試（推薦入試、第一次募集及び分割前期募集）では、全校でインターネット出願を実施する。

<出願手順>

- ① 願書に記載する情報を「出願サイト」に入力し、入学考査料の決済を行います。
- ② 出願書類をまとめ、中学校に提出する。（中学校から各都立高校へ郵送します。）

ア 出願時に必要な書類 ※書類はすべて中学校から郵送します。

- (ア) 入学願書 … ネット出願では、本人が出願サイトへ志願者情報を入力します。
- (イ) 入学考査料（納付書）… 出願サイト上での決済又は所定の納付書による納付。納付書による場合は、領収書の画像を出願サイトにアップロードする。
全日制2,200円、定時制950円
- (ウ) 調査書 … 中学校で作成します。
- (エ) 自己PRカード（推薦受検者及び面接実施校の志願者のみ）…本人自筆。
- (オ) 一般推薦書 … 一般推薦受検者のみ必要。中学校で作成します。
- (カ) 文化・スポーツ等特別推薦書 … 文スポ受検者のみ必要。中学校で作成します。

- (キ) 理数等特別推薦書 … 理数特別推薦受検者のみ必要。中学校で作成します。推薦書は、各自が高校へ行き、入手します。
- (ク) 科学分野等の研究に関するレポート … 理数特別推薦受検者のみ必要。本人が作成します。A4判2枚以内、様式任意。
- (ケ) ESAT-J スコアレポート … 第一次募集・分割前期募集受検者のみ必要。1月下旬に中学校に届きます。
- ※ 出願に必要な書類は中学校より配布されます。ただし、学校所定の書類等を使用する高校を受検する場合は、各自が高校へ行き、入手してください。
- ※ 自己PRカードの内容は、「志望理由について」「中学校生活の中で得たことについて」「高等学校卒業後の進路について」の3点です。
出願時に提出を必要とするのは、推薦受検者及び面接を実施する高等学校の志願者です。なお、面接を実施しない高等学校は、合格決定後、書類提出日（3月中旬）に提出します。
- ※ 特別推薦受検者で、一般推薦も同時に志願する場合は、考査料が2回分必要となります。納付書を使用する場合は、2枚必要となります。願書・自己PRカード・調査書は1枚ですが、受検番号は2つ発行されるので注意してください。

イ 氏名・生年月日等の確認について

願書・調査書等に記入する氏名などは、正確に記入し、全て一致している必要があります。11月中に確認の書類を配布しますので、提出をお願いします。

ウ 調査書の「諸活動の記録」について

道徳及び特別活動等並びにその他の学校内外の活動のうちから、生徒の特筆すべき活動を取り上げ、その活動事実や実績を、客観的な記録として記入し、所見を加えて調査書を作成します。また、顕著な成果のある活動だけでなく、次のような活動についても記入することができます。

- (ア) 当該受検者が積極的な態度や意欲をもって取り組んでいる活動
 (イ) 当該受検者の人間形成上好ましい影響のある活動や他の生徒に好ましい影響を与えている活動
 (ウ) 当該受検者の中学校3年間における継続的な活動又は各学年における特筆すべき活動



例のような記入の仕方になります。

例

- ・ 図書委員として「委員会だより」の作成を担当（第3学年）
- ・ テニス部員として地区大会新人戦で3位入賞（第1学年）
- ・ 総合的な学習の時間で「学校周辺の植生」について発表（第3学年）
- ・ 高齢者福祉施設を定期的に訪問（第1学年～第3学年）
- ・ ○○検定○級取得（第○学年）

- ・ 他の生徒との比較ではなく、その生徒の活動を記録するものです。
- ・ たくさんの記述があるからといって有利になるものではありません。生徒が自己PRカードに記入しやすく、面接等で質問に答えやすい（話をふくらませやすい）事実を記入します。

- ※ この後、調査書（私立調査書・入試相談資料等も含む）作成の参考資料として、3年間の委員会や係活動・部活動・検定・資格・学校内外での活動の実績等についてまとめた書類を提出してもらいます。まずは生徒自身が自分でまとめておくと、自己PRカード等を記入するときや面接での受け答えの参考にもなります。準備をしておきましょう。

(4) 志願変更（願書差し替え）

学力検査に基づく選抜では、願書提出後、1回に限り志願先を変更することができます。願書受付が終了した後、新聞等で発表された倍率を見て倍率の高い学校から倍率の低い学校への変更を考える場合が多いようです。ただし、最初は倍率が低かった学校も、差し替え終了後には上がることもあります。

【差し替えに当たっての注意】

- ・推薦、定時制（一部を除く）、高等専門学校は、志願変更はできません。
- ・取下げた高校の同じ学科内の科（分野）相互間の志望順位の変更はできません。
- ・志願変更をしたら、新しく出願する学校用に自己PRカードを書き直します。
- ・志願変更の手続きは、ネットではなく直接高校で行うことになります。その際、生徒手帳などの本人確認できるものを提示します。

志願変更のできる例

- | | | |
|----------------------|----|------------------|
| ○ 立川（普通科） | ←→ | 国立（普通科） |
| ○ 小平西（普通科） | ←→ | 田無工業（機械科） |
| ○ 久留米西（普通科） | ←→ | 田柄（外国文化コース） |
| ○ 国際（国際学科） | ←→ | 小平（外国語コース） |
| ○ 小平（外国語コース） | ←→ | 小平（普通科） |
| ○ 農業（農業に関する学科：食品科学科） | ←→ | 農業（家庭に関する学科：食物科） |
- （同じ学校であるが異なる学科への再提出はできる。）

志願変更のできない例

- | | | |
|-------------|----|-----------|
| × 田無工業（機械科） | ←→ | 田無工業（建築科） |
|-------------|----|-----------|
- （同じ学校の同じ学科への再提出や、志望順位の変更は出来ない）
- | | | |
|-------------------------|---|------------------|
| × 東村山高校（普通科：エンカレッジスクール） | → | 稔ヶ丘高校（チャレンジスクール） |
|-------------------------|---|------------------|
- （全日制課程からチャレンジスクールへの志願変更はできない。その逆は可能）

（５）入学手続き

合格者は、入学手続期間内に**入学確約書**を提出するとともに、所定の納付書により、**納付期限内**に入学料（全日制 5,650 円、定時制 2,100 円）を指定の金融機関の窓口で納入しなければなりません。

入学確約書を提出しない者は、合格を放棄したとみなされます。また入学料の納付がない場合、入学確約書は無効となりますので注意してください。

（６）分割後期募集及び第二次募集

分割募集とは、予め募集定員を分割前期と分割後期に分け、前・後期の募集をそれぞれ実施することです。分割募集を実施する学校では、分割前期募集において欠員が生じた場合、その欠員分も含めて分割後期募集として実施します。

また、第二次募集とは、第一次募集の結果、入学手続き者数が募集人員に達しない場合、その相当人員についての募集を行うことです。

近年、近隣の学校では、第一次募集で定員に達するため、第二次募集は実施しないことが多いです。また、第二次募集があった場合も非常に少人数になるので、倍率が高くなります。よって、第二次募集をあてにした受検は控えましょう。

応募資格は第一次募集と同様です。ただし、**すでに都立高校等の推薦、第一次募集等で合格になった者は出願できません。**一人でも多くの生徒の都立高校への進学を保障する趣旨から、**すでに国私立高校に入学手続きを終えている生徒については、出願を控えてください。**

分割後期募集の学力検査は、3教科（国、数、英）及び面接です。

第二次募集の学力検査は、原則として3教科となっています。面接は学校により定められています。

出願はネットではなく直接高校に行って行いますが、その他の志願変更、学力検査、及び発表・手続きなどについては、第一次募集とほぼ同様です。

＜分割後期募集及び全日制第二次募集＞

事 項	日	時	
出 願	令和5年3月 6日 (月)	午前9時 ～ 午後3時	
志願変更	願書取下げ	令和5年3月 7日 (火)	午前9時 ～ 午後3時
	願書再提出	令和5年3月 8日 (水)	午前9時 ～ 正 午
学力検査	令和5年3月 9日 (木)	集合 午前8時30分	
実技・面接等	令和5年3月 9日 (木) 以後、各都立高校が定める日時		
合格者の発表	令和5年3月15日 (水)	正 午	
入学手続き	令和5年3月15日 (水)	正 午 ～ 午後3時	
	3月16日 (木)	午前9時 ～ 正 午	

＜定時制第二次募集＞

事 項	日	時	
出 願	令和5年3月22日 (水)	午後3時 ～ 午後7時	
志願変更	願書取下げ	令和5年3月23日 (木)	午後3時 ～ 午後7時
	願書再提出	令和5年3月24日 (金)	午後3時 ～ 午後7時
学力検査等	令和5年3月27日 (月)	集合 各都立高校が定める時刻	
合格者の発表	令和5年3月28日 (火)	午後3時	
入学手続き	令和4年3月28日 (火)	午後3時 ～ 午後7時	
	3月29日 (水)	午後3時 ～ 午後7時	

※分割後期募集・第二次募集および定時制第二次募集では、ネット出願は行わず、書類等の提出はすべて紙で行う。入学考査料は所定の納付書によって行い、入学願書の裏面に張り付ける。受検者が高校へ行って手続きを行う。

※出願に必要な書類は中学校より配布されます。ただし、学校所定の入学願書等を使用する高校（荻窪などの定時制3部制の高校、世田谷泉、稔ヶ丘などのチャレンジスクールなど）を受検する場合は、各自が高校へ行き、入手してください。

※分割後期・二次募集では、調査書が「親展」扱いで厳封されて担任より渡されます。開封すると無効になるので、取り扱いに注意してください。

（7）インフルエンザ等学校感染症罹患患者等に対する追検査

第一次募集において、インフルエンザや新型コロナウイルス感染症等の感染者のほか、新型コロナウイルス感染症への感染が疑われる者として学校保健安全法第19条により中学校が出席停止を行った者などに対して、追検査を実施しています。ただし、分割募集を実施する都立高校においては、追検査を実施しません。

追検査の措置を希望する場合には、申請書により令和4年2月22日（火）午後5時までに出席した都立高校長に申請します。なお、追検査の応募資格を有する者が、インフルエンザ等のため、出席した追検査も受検できなかった場合（分割前期募集及び分割後期募集の双方を同様の理由で受検できなかった場合を含む。）、追々検査を実施します。

- ・日程（出願、検査、発表、手続き）：分割後期募集・第二次募集と同じ
 ※ネット出願は行わず、書類等の提出はすべて紙で行う。受検者が高校へ行って手続きを行う。
- ・検査内容：3教科（国・数・英）の学力検査の他、面接、作文、学校設定検査（各都立高校が実施する、社会・理科の内容を含む検査）等の中から各都立高校が定めた方法で実施する
- ・検査会場：各都立高校で実施する

(8) その他の学校

都立通信制課程、海外帰国者入試選抜、都立産業技術高等専門学校は、別に要項が定められています。これらの学校を希望される場合は、担任にご相談ください。

☆重要！

都立高校においては、推薦入試はもちろんのこと、

一般入試においても合格の放棄・辞退がないようにしてください。

実際に進学を志望している私立高校や国立高校に合格した場合は、それ以降の都立高校への出願や受検はしないでください。これは、一人でも多くの生徒の高校進学を保障する趣旨であり、記念受検や腕試しとしての都立高校受検は決してしないでください。

- ※ 都立高校では、合格できるのは1回だけです。推薦受検で合格し、手続きが遅れて無効になってしまった場合、その年のそれ以降の都立高校入試を受検できません。
- ※ 第一志望の学校に合格した時点で、それ以降の出願や受検は、都立・私立に関わらず、行わないでください。

2 私立高等学校の入試について

- ※ 都立高校と違い、私立高校は入試制度や教育内容等が学校ごとに異なります。ここでは、多くの私立高校に共通していること、一般的なことについて説明します。
詳しくは、各校の募集要項・パンフレット類を各自で取り寄せ、確認してください。

(1) 私立高校の特色

- ア 設立者の建学の精神や宗教などにより、特色のある教育が行われています。進学指導に熱心な高校、職業教育に熱心な高校、宗教教育をする高校、生活指導に熱心な高校、その他大学の付属高校、芸術・スポーツ等が盛んな学校など多種多様です。
- イ 東京都内だけでなく、埼玉県や他県にある学校も自由に受験できます。
- ウ 男女を募集していても、中学校のように共学のところもあれば、クラスが男女別々の学校、校舎が違う学校も少数ながらあります。

(2) 私立高校を選択するときの注意

- ア より多くの正確な情報を集めて、実態を知ることが大切です。学校の環境、通学時間、学費なども考えましょう。
- イ 性格や適性も考えましょう。学校独自の校風や教育方針があります。ホームページやパンフレットだけでなく、説明会や体験入学に参加し、自分に適しているかよく調べましょう。
個別相談を実施している場合は、ぜひ参加すると良いでしょう。その際、1学期の成績や、自分の学力を示す資料（模試の結果など）を持参すると、具体的な相談もしやすいです。
- ウ 大学の付属高校は、優先入学できる場合も多いですが、全員が入学できるとは限りません。一般受験で優遇する高校、選抜テストを実施して推薦入学を決める高校、高校3年間の成績により推薦入学できる高校などがあります。成績次第では、進学できない場合や希望の学部に入れないこともあります。
- エ 健康診断の結果を調査書に記入する学校もあります。中学校で本年度の所定の健康診断を受けていない場合は記入できなくなるので、医療機関などで検診を受ける場合があります。書類をよく確認しましょう。1・2年生のときを含め、欠席や遅刻が著しく多い場合は、推薦・一般に関わらず、問題となることがあります。欠席の理由が病気やけがの場合は、欠席の理由（「病名」「入院期間」等）や現在の健康状態・進学後の生活（「例：体育は普通にできるか」）を担任の先生に相談しましょう。
- オ 手続きの進め方などは各学校によって様々です。募集要項をよく読んで間違いのないようにしましょう。わからないことがある場合は自分の判断で勝手に進めることなく、高校または担任の先生に相談しましょう。
- カ 地域のスポーツ活動などで進路についての話が進んでいる場合は、必ず、その旨を担任に報告してください。（すべてが決まってからの報告では遅すぎます。）

(3) 日程

	都内私立推薦受験	都内私立一般受験（優遇制度等含む）
入試相談	12月15日より2～3日間	12月15日より2～3日間
出願	1月15日以降	1月25日以降
試験	1月22日以降	2月10日以降
発表	試験の当日～	試験の当日～

- ※ 一般入試日が何日か設けてあり、受験日を選べる学校や複数回受験できる学校もあります。
- ※ 埼玉県など他県の私立高校は、出願や試験日が都内の私立高校より早いです。（埼玉県の私立高校は、中学校と入試相談を行わない学校もあります。そのような学校では生徒・保護者が直接高校の先生と相談する必要があるため、必ず事前相談を行ってください。）

(4) 推薦入試

その学校しか受験しない者への優先入学制度です。この制度で合格した場合、その後で他の高校を受験することは一切できません。また推薦する高校側の推薦基準を満たしていないと出願することができません。12月15日から始まる入試相談のとき、中学校と高校の間で受験資格があるかどうかの相談が行われます。推薦受験の募集人数は、おおむね定員の5割です。出願及び入試は1月です。

ア 推薦受験の条件

- (ア) 志望する高校への進学がはっきりしていること
- (イ) 人物が優れ、生活態度がしっかりしており、学校長の推薦を受けられる（小平二中の推薦基準を満たしている）生徒であること
- (ウ) 成績（通常は3年生の2学期）の基準を満たしていること
高校により、3教科〇〇以上、5教科△△以上、9教科☆☆以上等、基準を定めています。同じ高校でも科やコースによって基準が異なります。ただし、基準を満たしていても成績の中に1があれば、推薦受験は認めないとい高校も多いです。
高校によっては、英語検定等の資格をもっている場合など、加点される場合もあります。
（加点対象になる検定の種類や級は、高校により異なる）
基準に達していないときの対応も高校によって様々です。たとえば1ポイント下回っている場合、全く受け付けない高校、個別相談の結果次第で受け付ける高校、推薦でなく一般受験で優遇する高校などがあります。
成績の基準は説明会などで聞けますが、中学校の先生に基準を伝える学校もあります。
- (エ) 出欠状況の基準を満たしていること
中学校3年間で欠席10日以内、各学年で欠席5日以内など、高校により異なります。加えて、遅刻の回数について定められている高校もあります。
入院など特別な理由で基準の日数を超えた場合には、個別相談によって受験を認められる場合があります。

イ 出願書類

- (ア) 入学願書（各高校で販売または配布しているので、各自で入手してください）
 - (イ) 推薦書（入学願書に同封されています。小平二中の校内推薦委員会で推薦が認められた者に対し、中学校が作成します。）
 - (ウ) 受験料（通常10,000円～30,000円）
 - (エ) 中学校からの調査書（様式指定の高校もある。その場合は、入学願書に同封されている）
調査書の形式はさまざまですが、推薦受験の場合、1年からの成績や出欠状況を記入する高校も多いです。
- ※出願形式が、郵送からインターネット出願に変わり始めています。各学校の説明会で方法を確認しましょう。また、ネット出願の場合でも、いくつかの書類は郵送する必要があります。

ウ 選考方法

- (ア) 都内にある私立高校は中学校で発行する推薦書、調査書及び当日の面接や作文の結果で合否が判定されます。
- (イ) 都内にある私立高校は基本的に面接や作文で合格を決定しますが、埼玉県にある私立高校では適性検査を実施する学校があります。また、都内の学校でも適性検査を実施する学校があります。
- (ウ) 面接の結果を特に重視している学校が多く、高校側が推薦生徒にふさわしくないと判断し、不合格になった例もあります。

エ 合格の可能性

都立高校の推薦受検では、一般入試よりも推薦受検の方が数段難しくなります。それに対して、私立高校では第一志望の場合ならば推薦受験の方が合格しやすい状況です。受験資格が必要なので合格率はかなり高くなります。基準を満たして受験し、面接の結果、人物に問題ないと判断されれば、合格できる高校が多いです。

しかし、中には出願した生徒の中から、適性検査で選抜して合格者を決める高校もあるので、高校を選ぶ際によく確認しましょう。

オ 入学手続き

入学手続きの締め切りは早く、合格発表当日に締め切ってしまうこともあります。入学金納入を含めて、手続きの用意を忘れずにご確認ください。

カ 特別な推薦受験

学校長の推薦ではなく、自分で自分を推薦する制度（自己推薦等）がある高校など、上記とは異なった推薦基準もあります。その場合、親子で学校説明会や個別相談に参加することを条件にしている学校もあります。

また、スポーツ推薦（部活動などでの実績があり、高校入学後も十分に活躍できる力を有する者に対する制度）が、一部の高校であります。これは、形式的には推薦入試となる場合が多いです。その場合は、中学校からの推薦書を必要とします。「スポーツ」に限らず、「文化系」の技能について募集する高校もあります。

キ その他

都立推薦と同様に、合否がわからないうちは他校への出願・受験も認められますが、合格後は、一切それらを辞退しなければなりません。

また、推薦で入学した生徒は、卒業した中学校の代表です。高校入学後も気を緩めずに努力を続ける責任があります。

(5) 一般入試

多くの私立高校の一般入試は、3教科で行われます。また、面接も多くの高校で行われています。面接の結果によっては、どんなにいい点数をとっても不合格になる場合もあります。また、調査書を重視する高校もあります。成績に1があつたり、欠席・遅刻などが多いときには不利になると言えるでしょう。

必要書類は、推薦書以外は推薦受験の場合とほぼ同じです。

高校により受験日が若干異なるため、複数の学校を受験することができますが（推薦入試や第一志望、一部の優遇制度付きの受験等は除く）、入試日が重ならないように、入試要項をしっかりと確認してください。また、あまりにも多くの高校を受験すると、最終的には体力勝負になり、実力が発揮できなくなることもあります。

入学手続きが都立高校発表後でよい高校や、すぐに入学金を納める高校など、さまざまです。第一志望でない高校を受験するときは、よく調べておいてください。（延納手続きの有無やその方法など）

ア 併願優遇制度を用いての受験

第一志望の学校が不合格だった場合にその学校に必ず入学するという条件で、一般入試において優遇してもらう制度です。基本的に推薦受験と同じように入試相談を通して優遇制度が適用されるかを確認します。併願優遇制度は、募集要項に明記していない場合もあり、願書等も一般受験者と同じものを使います。

推薦受験同様に、高校が定める併願優遇制度の基準と、

小平二中の推薦基準を満たしている生徒であることが必要です。

併願優遇制度の学力に関する基準は、推薦や後述の第一志望の場合よりも厳しくなります。

入学手続き（学費等の納入など）は、都立高校の合格発表後まで可能であったり、申請による延納

制度が設けられていたりします。

都立高校が第一志望の場合のみ併願優遇を認める高校や、他の私立高校が第一志望でも併願優遇を認める高校があります。自分の受験したい学校の条件を確認してください。

優遇の内容は、高校によって異なります。過去何年も不合格者がいないほど優遇してもらえる高校や、「+10点」の優遇で不合格者が多く出る高校などさまざまです。説明会や個別相談で、優遇制度の情報も集めましょう。

イ 第一志望での受験 (いくつかの形がある)

(ア)推薦入試の基準に満たないが本人の入学への意志が強いとき、入試相談を経て第一志望で受験するという形態。中学校長の推薦を受けられる生徒であることが必要です。

(イ)入試相談は行わないが、合格したら必ず入学するという約束で点数の加点など優遇される受験。(第一志望なので、合格した場合の手続きは、速やかに行わなければなりません)。

(ウ)推薦受験で不合格だった受験生が再受験する場合、第一志望なので優遇される場合があります。

ウ 一般入試(フリー受験)

入試相談等を介さず、自由に受ける入試です。

当日の得点がかかなり大きなウエイトを占め、高校によって問題の難易度も傾向もさまざまで、事前の入念な準備が必要です。調査書の扱いは高校によって異なります。

併願優遇制度を利用する受験者も、一般入試の募集定員に含まれます。優遇措置を受けて受験する生徒が多い高校に優遇制度無しで合格するには、かなりの実力が必要です。

(6) 特待生・奨学金

私立高校は、入学金や授業料などを免除してくれる特待生制度を取り入れている学校が多くなりました。(成績の規定があったり、入学時や入学後の試験の得点で決まったりすることもあります)

それ以外にも小平市や東京都・日本育英会などの奨学金貸付制度もあります。その他、独自の奨学金制度がある私立高校もあります。詳しくは担任にご相談ください。

3 高等専修学校等・就職について

(1) 高等専修学校など

専修学校や各種学校では、さまざまな分野の学習をすることができます(工業関係・服飾・美容・調理・商業・看護・芸術等)。修業年数も1年から3年、中には4年以上の学校もあります。

3年制以上の学校の中には通信制の高校と提携して卒業時に高校卒業の資格が取れる学校も増えてきました。高卒の資格でなく、高卒認定資格(以前の大学入学資格)が取れる学校も増えていきます。

入学試験は学校によってさまざまですが、推薦試験や優遇制度など私立高校と同じようなシステムがある学校も多くあります。第一志望に高校を、第二志望に専修学校を選ぶ生徒もいます。

学費は、分野や修業年数によって大きく異なります。通信制高校と提携している学校は、その分費用が多くかかります。まずは担任にご相談ください。

(2) 就職

中卒での就職については、就職口が少ない(無い)など、難しい状況です。保護者の方と本人と担任が十分話をしてから進めていきたいと思います。希望がありましたら、お早めにご連絡ください。

ハローワークを通さずに、親戚や知り合いの紹介で就職をする話も耳にします。その場合、労働条件などの確認をせず、後でトラブルになることもあるようです。あらかじめ条件などを確認してから話を進めましょう。

4 校内での推薦（推薦受験・優遇制度等）について

推薦入試は、中学校と高校（高専や専門学校・就職先）の信頼関係に基づいて成り立つ入試制度です。「**中学校3年間を一生懸命過ごし、高校入学後も頑張れるだろう生徒**」を推薦に値する人物として、**推薦することになります。したがって、本人や保護者の希望があっても、すべての生徒を推薦できないことがあります。**

推薦するにあたり、以下の点を考慮した上で、校内の推薦委員会で総合的に判断しますので、その点を十分に理解して今後の学校生活を送ってほしいと思います。

学校推薦とは、都立の推薦、私立の推薦（単願・第一志望・併願優遇・スポーツ推薦等で「学校推薦」や「校長推薦」を必要とするもの（入試相談を行うものすべて）、職安を通しての就職（学校が紹介したもの）などをいいます。

【小平第二中学校における推薦基準（再掲）】

① **その学校を第一志望とする者（併願優遇の場合は第二志望）**

- ◇ 合格したら必ず入学するということです。
- ◇ 併願優遇とは、第一志望の学校に不合格の場合は、必ず入学するということです。

② **その学校の教育方針を十分に理解し、その方針に従い学校生活を送ることができる者**

- ◇ 実際に説明会等に必ず参加して、自分にあっているか、よく考えることが大切です。

③ **意欲があり、人物・健康ともに優良で出席状況も良好である者**

- ◇ 目標をしっかりもち、意欲的な生徒が期待されています。中学校3年間の実績（肩書きだけでなく実際に活動した内容）で、高校入学後の意欲を判断する高校が多いです。出欠席・遅刻等の回数は、3年間を問われます。

④ **誰が見ても「この生徒なら推薦にふさわしい」といえる人物である者**

- 授業中（教科の授業・総合的な学習の時間・道徳・学活も含む）、真面目に積極的に学習活動に取り組んでいる。〔授業態度（PCの使用状況など）・授業遅刻・私語・提出物の期日遅れなどは、推薦希望でなくとも3年としてふさわしくありません〕
- 校則や学校ルール・一般マナーの大切さを理解し、他人に迷惑をかけず明るく生活している。委員会活動、係活動、日直・掃除当番等やるべきことをまずしっかりやりましょう。時間を守る、挨拶がしっかりできる、和を乱さないということも日々の生活で大事なことです。
- 行事や学級活動に、自ら進んで取り組んでいる。
(学習以外の場面でも活躍する生徒を高校は望んでいます。)
- 服装違反や乱れ・不要物・菓子の持ち込み等がなく、きちんとした態度で生活している。
(生活面で指導を受けても、改善が見られないままでは困ります。)
- 自分が合格しても学年全体の雰囲気を崩すことなく、推薦入試で不合格になった人やこれから受験する人のことを思いやり、他の人の役に立てる者
(一般入試より、早くに合格が決まります。皆の前で、自分の合格を大喜びしたり、授業に手を抜いたり、放課後も遊び歩いていたら、他の人はどんな気持ちになるでしょうか。)

※ 推薦入試で合格した人は、進学後も「推薦合格者」として、進学先の高校でみられます。つまり、次年度からの小平第二中学校の信用にもかかわります。合格後、卒業まではもちろんのこと進学後も「推薦にふさわしい人物」として行動できる自信がないならば、推薦は遠慮してください。

※ 高校は、中学より大きな集団となります。中学校の段階で、集団生活の決まりが守れる、協調性があるということが必要となります。

※ 普段から他の人への配慮のない言動のある人は推薦にふさわしいとは言えません。

5 推薦・優遇制度を利用する際の注意点

(1) 推薦受験

● 有利な点

合格が早く決まるので、合格した場合は気分が楽になるし、不合格の場合には次の対策が立てられます。不合格の場合、もう一度同じ学校を受験できます。

私立高校の場合は、一般受験よりも比較的合格しやすくなります。

● 考えておかなければならない点

第一志望が条件ですから、推薦受験制度を利用してからは志望校の変更・取り消しは一切認められません。第一志望は1校のみなので、**推薦で2校以上受験することはできません。**

都立高校の場合は、一般入試に比べると推薦入試のほうがかなり狭き門です。一般入試で合格できる実力の生徒も、推薦では不合格になることが多々あります。また、一般入試に向けての学習に推薦入試の準備（面接、小論文等）が加わり、非常に忙しくなるため、時間の使い方が大切です。

不合格になるとかなりのショックを受けることに加え、推薦入試の準備に割いていた分の学習時間を取り戻すことが課題となります。その高校に合格する実力があつたのに、自信を失い、受検校を変える生徒もいます。

早くに進路が決まるので、気がゆるんで学習意欲がなくなってしまう、入学後の授業についていけずに困る生徒も…（1月に合格が決まって手を抜いた生徒と、3月ぎりぎりまで努力し続けた生徒との差は非常に大きいです。高校に合格して終わりではなく、その先が大切なので、そこを履き違えてはいけません。）学習意欲がなくなるどころか、気のゆるみが生活の乱れにつながって、不祥事の結果、入学取り消しなどという最悪の結果も耳にします。

私立のスポーツ推薦で入学した場合は、3年間その部活動を続けることが条件となります。よく考えて出願する必要があります。

(2) 併願優遇制度

併願優遇は、第一志望校が不合格だった場合には、必ず入学するという条件での優遇制度です。

併願優遇入試は一般入試の位置づけになりますが、入試相談の際には学校が人物保証をすることになります。よって、推薦入試同様に、「小平第二中学校の推薦制度」を満たしている必要があります。合格後・卒業後にも、ふさわしい行動をとりましょう。

入試相談後の、併願優遇受験校の変更・取消等は一切認められません。

※併願優遇制度を利用する場合、都立高校の分割後期・二次募集等は出願できません。

これらの制度による受験を希望するときには、家庭でもよく話し合い、担任とよく相談をしてから決定しましょう。「入試相談」は社会では契約に当たるものです。相談した後に「やはり、受験を取りやめたい」などということはないようにしてください。

受験パターンを考えていこう 受験校決定までの流れ（東京都の学校をもとに）

第一希望が都立校の場合

推薦希望	有・無
私立入試希望	有・無
併願優遇希望	有・無
都立分割後期二次希望	有・無
高等学校以外希望	有・無

第一希望が私立校の場合

推薦希望	有・無
都立入試希望	有・無
併願優遇希望	有・無
都立分割後期二次希望	有・無
高等学校以外希望	有・無

※ 都立分割後期二次希望は、併願優遇制度を利用しない場合のみ可能

※ 併願優遇は、第一希望が私立高校の場合は適用されない高校が多い

○三者面談（10月24日～）で、上のパターン確認

私立推薦や併願優遇制度の利用を考えている場合は、高等学校の条件等を確認し、現在の成績や学校生活、出席状況と照らし合わせる。

また、2学期の成績次第で変更の可能性もあるので、学校をいくつか検討する。

○期末テスト 目標を達成できるよう努力する

○第3回進路希望調査（期末テストの手応えを元に、先の三者面談で検討したパターンの中から選ぶ）

※この時点で新しい学校名が出てくると、書類が間に合わない可能性があるため、考えている学校があれば必ず担任に伝える。できるだけ早く伝えること。

○3回目の三者面談期間前に、生徒に2学期の仮成績を伝える

※想定していた数字と大きくかけ離れていた場合は、志望校の再検討が必要。

○三者面談（11月30日～）進路希望調査の内容を確認・決定する（推薦受験が決定するわけではない）

都立・私立推薦受験、併願優遇制度希望者は「都立高校推薦願」「私立高校推薦願」「私立高校併願優遇制度利用願」を受け取り、よく内容を確認後、速やかに提出する

○推薦委員会 上記の3種の「願」が提出された生徒に対して、校内推薦委員会で検討する

推薦等が認められた生徒は、その受験が決定する

推薦が認められない生徒、条件付きで認められた生徒は、個別の動きになる

○入試相談（12月15日～）

校内推薦委員会で認められた私立高校の推薦、併願優遇希望の生徒について私立高校と相談し、受験を認めてもらう（認められれば、受験が決定します）

※高校により締め切りは異なりますが、12月15日・16日ごろに各高校をまわります。

○願書の準備（一般的な都立高校の願書等は、中学校に届きますので配布します）

※出願に必要な書類、提出締め切り、出願方法なども確認しましょう

○調査書・推薦書作成願いを担任に提出（遅くとも2学期中）

6 今後の予定

月	進路日程	備考
10 ・ 11 月	第3回進路希望調査（締切 10/11） 第2回三者面談（10/24～10/28）	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査をもとに、三者面談を行います。成績の上下を考えてある程度のパターンを決定します。2学期の成績がほぼ決定するのを待って、最終決定をします。 この面談で、 <ul style="list-style-type: none"> 志望校が絞れない。 おおまかな方針がはっきりしない。 保護者と生徒の考えが一致しない という状態にならないように、ご家庭での話し合いを十分にしておいてください。
	期末テスト（11/10～14）	
	第4回進路希望調査（締切 11/18）	
	英語スピーキングテスト ESAT-J （11/27）	<ul style="list-style-type: none"> 会場等、詳細は決まり次第お知らせします。
12 月	仮内申連絡 第3回三者面談（11/30～12/8） 面接練習開始	
	受験写真撮影	※希望者のみ。自分で用意する場合は、サイズ、条件、枚数などに注意すること。
	「推薦受験願」等提出	<ul style="list-style-type: none"> 面談で推薦入試受験希望校が決まり次第、「推薦受験願」を、担任を通して学校長に提出します。併願優遇を利用する生徒は「併願優遇受験願」を提出します。
	私立高校入試相談（15～）	<ul style="list-style-type: none"> 推薦入試、一般入試の第一志望入試、併願優遇入試の希望者がある私立高校、高等専修学校に中学校の先生が出向き、その生徒の成績資料等を示します。（入試相談を実施しない高校もあります。）
	「調査書等作成願」提出 「自己PRカード」作成	<ul style="list-style-type: none"> 決定した志望校の調査書等の作成を担当に願います。 都立高校に提出する自己PRカードを作成します。
	終業式（25）	
	冬休み	<ul style="list-style-type: none"> 学習の仕上げです。過去問に挑戦するなど、具体的な入試対策をする。 作文、小論文の試験がある場合、その練習をする。
1 月	始業式（11） （私立推薦・一般出願準備） （都立推薦出願準備）	<ul style="list-style-type: none"> 出願前に事前指導を行います。
	私立推薦入試出願	<ul style="list-style-type: none"> 郵送やネット出願の学校、他県等でこれより早い場合があります。入試要項でよく確認してください。
	私立推薦入試（22～） 合格発表、手続き	<ul style="list-style-type: none"> 高校により多少異なります。 合格後、速やかに手続きを行います。
	都立推薦出願（12～18 必着）	<ul style="list-style-type: none"> 出願書類は中学校から郵送します。 中学校への提出期日などは後日お知らせします。
	私立一般入試出願（25）	<ul style="list-style-type: none"> 郵送やネット出願の学校、他県等でこれより早い場合があります。入試要項でよく確認してください。都立推薦入試の受検予定者で、第二志望の私立高校の出願締め切りが都立推薦合格発表（1/31）より後の場合は、結果を確認してから出願します。
	都立推薦入試（26、27）	<ul style="list-style-type: none"> 個人面接、小論文・作文、実技検査等

2 月	都立推薦合格発表 (2) 手続き (2、3)	<ul style="list-style-type: none"> ・合格後は速やかに入学手続きをします。 ・不合格になり、第2志望の私立高校の出願を済ませていない生徒は、速やかに出願をします。
	都立第一次・分割前期募集出願 (2/1～7 必着) 取り下げ (13) 再提出 (14)	<ul style="list-style-type: none"> ・出願書類は中学校から郵送します。 ・中学校への提出期日などは後日お知らせします。 ・出願後、倍率等を考慮して志願変更ができます。
	私立一般入試 (10～) 合格発表、手続き	<ul style="list-style-type: none"> ・第一志望で受験した生徒は速やかに手続きを完了します。
	都立第一次・分割前期学力検査 (21)	<ul style="list-style-type: none"> ・実技検査及び面接等を 21 日以降に行う学校があります。
3 月	都立第一次・分割前期募集 合格発表 (1) 入学手続き (1、2)	<ul style="list-style-type: none"> ・合格者は速やかに手続きをします。 ・不合格で、第二志望の私立高校にすでに合格している人は私立高校に速やかに手続きをします。
	都立分割後期・第二次募集出願 (6) 取り下げ (7) 再提出 (8) 学力検査 (9) 合格発表 (15) 入学手続き (15、16)	<ul style="list-style-type: none"> ・私立高校の併願優遇制度を利用して合格している生徒や、他の学校への入学手続きを終えている生徒は、出願できません。 ・第一次・分割前期募集と同様に、取り下げ・再提出ができます。
	卒業式 (17)	
	都立定時制分割後期・第二次募集 出願 (22) 取り下げ (23) 再提出 (24) 学力検査 (27) 合格発表 (28) 入学手続き (28、29)	